

オープンプラットフォームで変える 海事クラスター産業

船舶IoT利活用のためのオープンプラットフォームに関するワークショップ

平成29年5月16日 海運クラブ

I

O

T

東大名誉教授・うみそら研理事長

大和裕幸

本日のワークショップの位置づけ

第1回目フォーラム(済)

1回目 (4月17日 午後)

- 参加者:約150名
(船社・造船所・船用工業・保険・大学・研究機関等)
- 基調講演
国交省、経産省
- パネルディスカッション
(船社・造船所・船用工業・ソリューションプロバイダー・船級)
- 特別講演
コマツ社 建機事例紹介

- オープンプラットフォームへの期待
- 早急にルール作りが必要
- 理解を深める場の開催

第2回目フォーラム(予定)

2回目 (7月4日)

- 総括
- ワークショップでの討議結果について
- 今後の活動

ワークショップ (本日)

前半 (5月:午前)

- 対象:技術担当者
- 船用工・新スマートナビゲーション研究会での標準化の取り組み
概要・ユースケース
- 船上データサーバーの仕様と建造時の対応
- データ名称標準
- 陸上データセンター機能等

後半 (5月:午後)

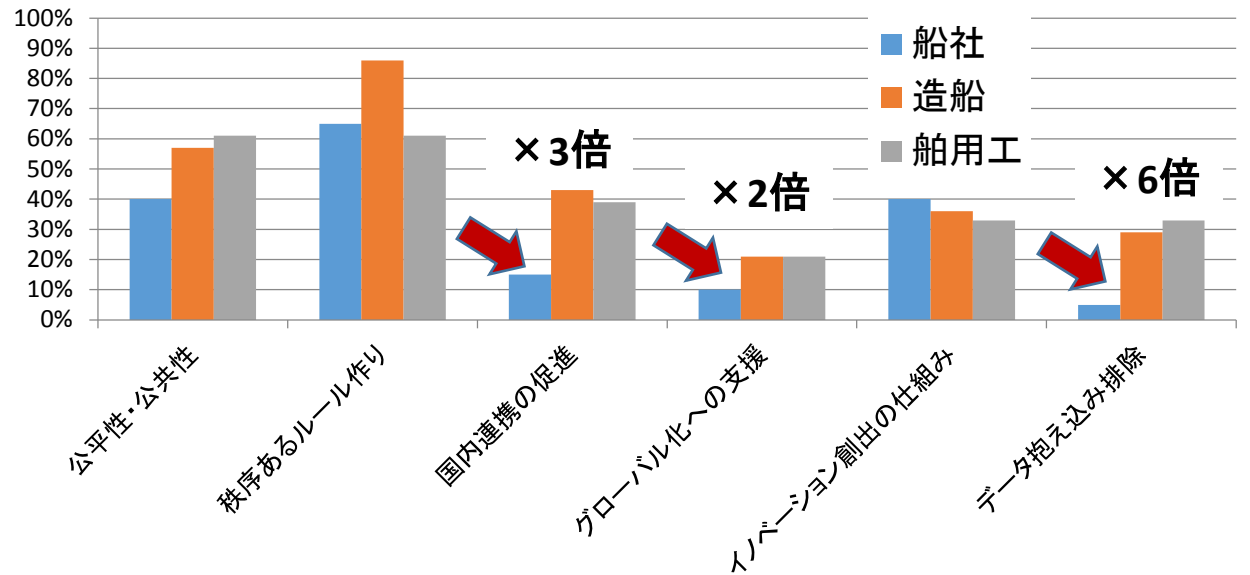
- 対象:法務・契約担当者
- データオーナーシップにおける主要な論点
- 船舶IoTオープンプラットフォームにおける法的論点の整理

▲ バリシップ(5月26日)

第1回のフィードバック

オープンプラットフォームに対する期待

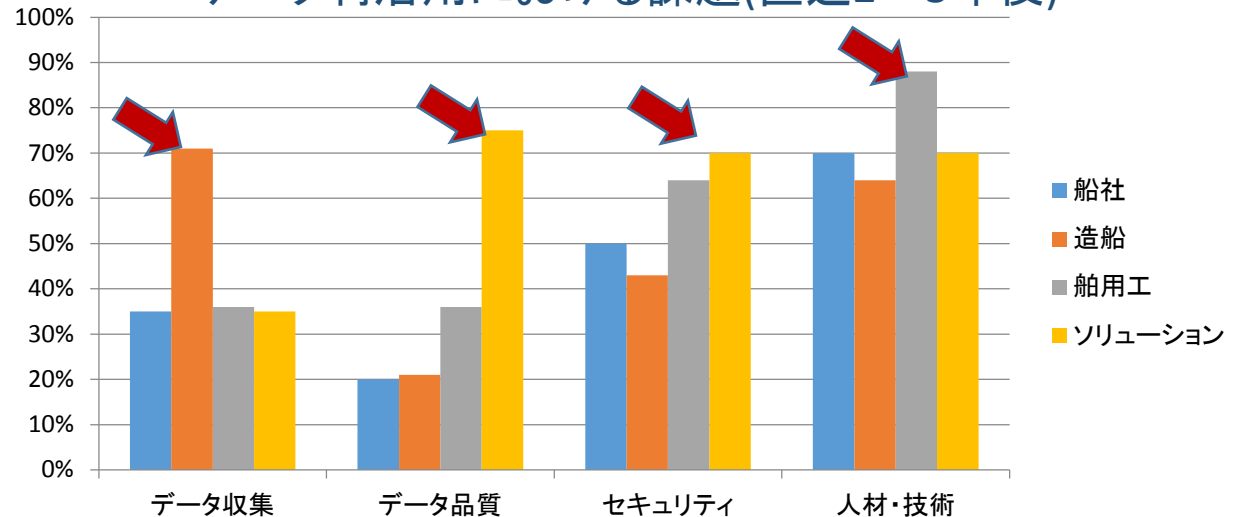
- 日本海事産業が直面する課題が浮き彫りになった
 - 船社の視点は既に海外に
 - 船社がデータを第三者に提供するモチベーションは、イノベーション創出への期待
 - フリーコメントにて、圧倒的に不足しているスピード感とともに、使える国際標準として強力推進、および20年・30年後も使えるシステムが求められた



2. データ利活用における課題

- フリーコメントでは、「ビジネスモデルの構築」、「自社のみでの投資の限界」とともに、「データ利用のターゲット設定」といったコメントを得た。
- 各業種毎に特徴があるフィードバックを得た
 - 造船所: データ収集
 - ソリューション: 日頃のデータ取り扱いをされている実情を反映しデータ品質とセキュリティ
 - 舶用工: セキュリティと人材

データ利活用における課題(直近2~3年後)



本日のワークショップ — 目的と期待する成果

目的 技術の現状と法律的制度的課題について把握する

1. 【第1部 技術】

1. 舶用工・新スマ・ナビ研での船上データ収集に関する標準化の取り組み紹介
2. 陸上データセンターにおける機能、サービス、セキュリティおよびアクセスコントロールを紹介

2. 【第2部 法務・契約】

1. データオーナーシップにおける法務・契約面での主要な論点
2. 船舶IoTにおけるオープンプラットフォーム利用における法的論点の整理

期待する成果

1. 日本海事業界が合意できるルール作り → コンセンサスによるビジネス基盤整備
2. 実ビジネスで使える技術と使えるルール → ビジネスへの実装
3. スピード感をもって実現 → デファクト化と世界戦略

ご清聴ありがとうございました。

東大名誉教授・うみそら研理事長

大和裕幸